66

1961
66

和花兵衛後日語

遠
1.961
34

1961
66

叙

一日書舗耕書堂主人予が艸廬に来り如例一冊子を編よくと予日月を費し筆毫を損ずる必厭ひて諾せざ書肆の云詩曰善戯謔兮不為虐兮と云へり先生が一時の漫戯ハ我百歳の活計なり奈何ぞ筆を損ずるを而已なるのみや於是止まる能得ざ曾世小和荘兵衛と云冊子わ成思ひ出して彼草紙の後編と書して何ぞ乎云

于時寛政九年丁巳陬月　山東京傳誌

荘周夢為蝴蝶

愚直問答

和荘こくのふ
とくふくこくこと
こくふくこくこと
こくのちくふと
おり
えんぎ姫万里のちくひ
といふことうんてん
ぐんてんのちくひといひ
。奴者下暗といふを
ゆくさいりくこくこといひ
。我家の釜くこくひと
つふゆといつくく
らくのくる
こくこくひくこくひ
。蓮天とあくてんといひ
。ぐ鶏とぐ森といひ
。鶏をきんぐといひ
。種をくくのこといひ
。鶏とくんぐ。鳴くひと
きんはあくくといひ
。ぐのきくりの
。叫振をだあくまといひ
。美を名べす
。被わくあをわくくんといひ
。さんごーあをさんごーどといひ

呂律のいくりぬを
ろまつがまりぬと云
。樓閣とろきを
ろくとうこと云
。ひ裏紙とろり
りんといつ
そのわくりそく
つくーぐど

暗迷国の法

和泉
新欲
将軍
大福

名聞将軍

堪忍国

不見上国

御煎茶
和
千客
万来

夢中国
和
「ものもうぎるなんやや
これはなめらうくうや

「おとゝさまのおぐくまさま

十四

和

こくの